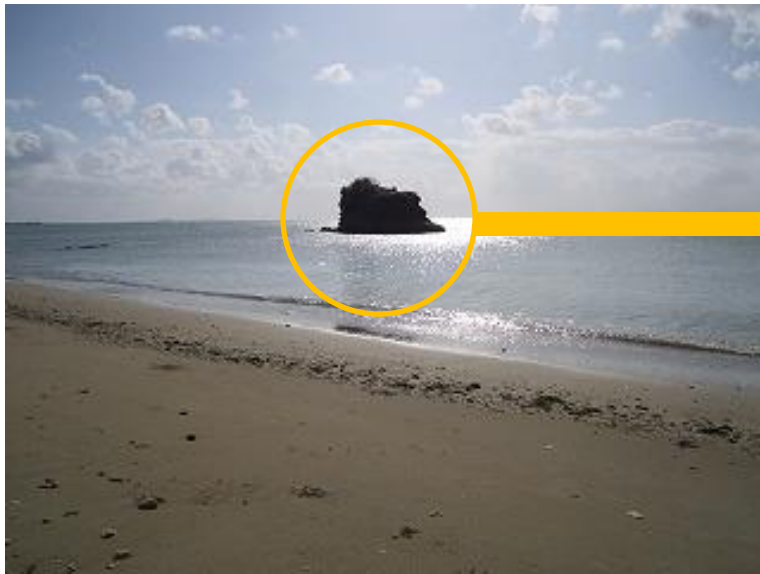




ザトウクジラ

通称：イルカ岩

沖縄県総合運動公園側の海岸には、不思議な形をした岩が見られる。

地元では、イルカ岩と呼んで親しまれており、昔（戦前？）はヘリコプターも着陸できるほどの大きさであったらしい。今では、着陸できるほどの広さがないが、おそらく、長い年月の間に波風によって浸食されたのだろう。角度によっては、クジラにも見える。

この岩は、主に砂岩（さがん、しゃがん）でできている。この場所の陸にも同様の岩が見られ、お墓が築かれている。

砂岩は、比較的浅い海で堆積した砂粒のかたまりであり、感触はザラザラしている。岩石が細かくなって、砂粒（直径0.05-2.0mm）が粘土などで固まってできた岩石である。方言では「ニービ」と呼ばれ、地層と平行にニービヌフニ（ニービの骨）という硬い岩が挟まれる。

風化した砂岩が見られます。よく小緑砂岩と呼ばれるもので、島ニービヌフニの部分尻層の中でも古い方の地層です。方言ではニービと呼ばれ、地層と平行にニービヌフニ（ニービの骨）という硬い岩が挟まれます。沖縄本島で見られる砂岩の中には、化石が含まれていることが多いらしい。

休日になると、子供たちが、この岩の周囲で遊ぶ光景も見られる。事故などがあったら危険であるので、公園側には禁止看板が設置してあるが、子供たちにとっては、さながら、秘密基地なのだろう。